科目ナンバリング	U-LAS40 20042 LJ26						
授業科目名 <英訳>	ピアサポート入門 Introduction to Peer Support			担当者所属 職名・氏名	学生総合支援機構 講師　　古川　裕之		
群	健康・スポーツ科目群	分野(分類)	健康・スポーツ科学(発展)	使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	月4	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

ピアサポートとは、悩みや困ったことがある時に、専門家による相談・支援を受けるのではなく、同じ立場の学生が相談・支援を行う活動のことを言います。京都大学の中でも学生総合支援機構DRCが行っている学生サポーターによる支援もピアサポートの1つと言えるでしょう。 学生どうしで支え助け合う「ピアサポート」の理念を学び、ピアサポートマインドを涵養し、実際にピアサポート活動ができるようになることがこの授業の目的です。困ったことがあった際に利用できる京都大学内にあるサポート資源について理解し、また実際に自分たちが相互に助けあうために必要なコミュニケーションスキルを身につけます。そして、自分たちでピアサポート活動を実践するためのプランニング力を養います。

[到達目標]

・ピアサポートの理念について理解する
・京都大学内のサポート資源について理解する
・サポートの際に必要となるコミュニケーションスキルを体験的に学ぶ
・サポートの際に必要な心構え・態度・倫理的な配慮について理解する
・グループでの活動などに主体的に、また協調して参加することができる

[授業計画と内容]

以下の授業計画・内容は、受講者の理解度やゲストスピーカーの都合などにより、適宜変更する場合があります。

第1回：オリエンテーション、自己紹介、アイスブレイク（コミュニケーションのウォーミングアップ）
第2回：コミュニケーションスキル向上のためのワーク①（傾聴）
第3回：コミュニケーションスキル向上のためのワーク②（アサーション）
第4回：コミュニケーションスキル向上のためのワーク③（問題解決）
第5回：大学におけるピアサポートの歴史・実践・課題について知る。大学生の心理的発達課題
第6回：大学の中のサポート資源について知り、具体的なサポート活動を考える①（学生相談・ハラスメント）
第7回：大学の中のサポート資源について知り、具体的なサポート活動を考える②（障害学生支援・就職支援）
第8回：大学の中のサポート資源について知り、具体的なサポート活動を考える③（留学生支援・メンタルヘルス）
第9回：相談を受ける・ピアサポート活動を行う際の守秘義務と倫理
第10回：他大学のピアサポート実践について知り、具体的なサポート活動を考える
第11回：ピサポートプランニング①（京都大学で必要だと考えるピアサポート活動について考え、具体的な活動を計画する）
第12回：ピアサポートプランニング②
第13回：プレゼンテーションスキル・広報スキルを学ぶ
第14回：ピアサポートプランの発表

ピアサポート入門(2)へ続く↓↓↓

ピアサポート入門(2)

第15回：全体の振り返り・フィードバック

[履修要件]

京都大学の中で、今後ピアサポート活動を実施したいと考えている人の履修を歓迎します。また、授業内ではグループワークやディスカッションなどを多く行いますので、積極的に関与することが求められます。欠席すると、その後の授業参加に支障が出ることがありますので、やむをえない場合を除き欠席しないでください。

[成績評価の方法・観点]

平常点70：毎回の授業後に提出する小レポート、グループワークへの貢献度、ピアサポートプランの作成と発表
期末レポート30
この科目の「履修要件」にもある通り、授業を欠席するとその後の授業参加に支障が出ますので、やむをえない場合を除き、3回以上授業を欠席した場合には不合格とします。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業を振り返り小レポートを授業時間外に作成して提出してもらいます。振り返りにおいては、コミュニケーションスキル向上のために必要な知識などについて調べ学び、またそれをどう運用することができるかについての学習が求められます。また、学内外の支援リソースについても積極的に調べることが、予習・復習のいずれでも求められます。
また、第11～14回の授業にかけては、グループメンバーで授業時間外にも発表準備をする可能性があります。

[その他（オフィスアワー等）]

学生総合支援機構学生相談センターが実施するアサポート活動に参加する場合、本授業を受講していることが望ましい。